

# 心の広場

かえりみちで

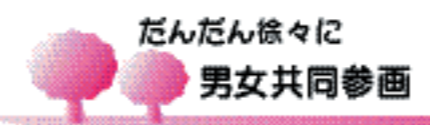
明戸小学校3年  
石山雄大さん

ぼくたち二年生は、一年生の時からまい日おなじ下校はんでなかなかかえっていません。  
ある日、いつものようにかえっていると、ちがうはんの人たちがさわいでいました。  
Aくんが  
「ちゃんとならべよ。」  
とか、  
「早くこいよ。」  
といばって言っていました。いわれたBちゃんが  
「Aくんは、はん長じゃないもん。」  
と言いましたが、なきそうな顔をしていました。  
ぼくは人がいじめられているのを見るとかわいそうになります。でもAくんに  
「やめなよ。」  
と言えませんでした。Aくんがこんどは、ぼくにむかってくるかもしれないと思いきわかったからです。  
その時、三年生のCくんがとおりかかりました。そして  
「けんかしちゃだめだよ。」  
と言いました。

ぼくは、ほっとしました。そしてゆう気が出てきました。ぼくは、「やめなよ。けんかは、だめだよ。」と言えました。Aくんは、「うるせえ。」

とおこったように言いかえしてきました。そのときぼくは、いやな気もちになりました。そして、ぼくとAくと、わる口の言いあいになってしまいました。  
ちかくにいた女の子がぼくに、「ごめんねを言ったほうがいいよ。」  
と言いました。ぼくもわる口を言ったことは、よくないと思ったので、  
「Aくんごめんね。」  
と言いました。Aくんは、その時はだまっていた。  
「まだAくんは、おこっているのかな。」  
と思っていると、Aくんも  
「ごめんね。」  
と言ってくれました。心がすっきりしました。Aくんもわかってくれたと思ううれしかったです。  
けんかをとめてよかったです。Aくんとは、おなじクラスなので、もつとなかよくなりたいです。今は、まい日たのしく下校はんでかえっています。

## 男女共同参画社会を実現するために



【男女共同参画社会の実現】が、全国的な課題として動き始め、各方面であらゆる取り組みが積極的に行われてきていますが、まだまだ「男は仕事・女は家庭」といった固定的な性別による役割分担をあたり前とする意識は根強く残り、男女間の不平等を感じたりすることは多いようです。  
わたしたちの生活をめぐる状況がどんどん変化していく中で、将来にわたって豊かで活力ある社会を築いていくためには、女性と男性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できるような社会づくりが必要となってきています。  
男女共同参画社会は、市から市民の皆さんにサービス提供や意識啓発をするだけで形成されるものではなく、家庭や職場をはじめとしたあらゆる分野で、行政・市民・企業など深谷市を構成するすべての人たちが一体となって進めることがとても大切です。

今後、新深谷市においても、  
【深谷市勤労者家庭支援施設 L・フォルテ】を拠点として、  
さまざまな事業を展開していきます。



深谷市勤労者  
家庭支援施設  
【L・フォルテ】  
☎ 573 - 4761  
(火曜休館)  
深谷市上柴町西4丁目2番地6 (上柴公民館南側)  
☆お気軽にご来館ください

男女共同参画社会の実現には、  
市民一人ひとりの意識改革と  
実際の行動の積み重ねが  
大切です。

# 深谷のことを もっと



## 武蔵武士の鑑「畠山重忠」

ここでは、鎌倉時代に活躍した郷土の偉人畠山重忠を紹介いたします。  
畠山二郎重忠は、長寛2年(1164)に畠山重能と相模豪族三浦氏の娘の二男として、畠山館跡で生まれました。畠山氏の先祖は桓武平氏で、最初、秩父に住み武蔵国の総検校職(今の警視総監)という重要な役目を代々勤める立派な家柄でした。重忠の父重能は畠山庄司となり、畠山の地に移り住みました。  
畠山重忠は智仁勇を備えた武将



# 知ろう!

として知られます。源頼朝の信頼は厚く、奥州征討をはじめ数々の戦いや出陣の隊列では、常に名譽の先陣を命じられています。また、身に覚えのない疑いがかかったときには絶食をしてまで身の証を立てたいさぎよい姿が昔の教科書に取り上げられ、その名を全国にとどろかせました。  
文武両道に秀でた重忠は、弓にたけており、那須与一で有名な扇の的を射る役は最初重忠が指名されました。また、学問や音楽の素養を身につけていて、鶴岡八幡宮の舞殿で静御前が舞った時、楽器で伴奏をしたことが知られています。  
心優しく力持ちの重忠の活躍



畠山重忠の銅像

は、一ノ谷の戦いで愛馬三日月をいたわり、背負つての逆落としては大変有名です。史跡公園にある銅像はその姿を表したものです。また、関東一の大力の相撲とりにも勝ったこと、3mもある大石を1人で持ち上げたことなど怪力無双といわれます。  
重忠の最期は、次のように伝えられています。元久2年(1205)6月19日、鎌倉からの急使が菅谷館(嵐山町)にいた重忠に伝えられました。「急用在り、直ちに鎌倉へ参上せよ」重忠は何事かと、取るものもとらずあえず、わずかに134騎の部下と鎌倉へと急ぎました。6月22日の正午近くに、横浜の二俣川へさしかかったところ、北条氏の軍勢3万余りが待ち受けていました。そのとき初めて、早朝、嫡子重保が鎌倉で戦死したこと、この呼び出しが幕府の実権を握りたい北条氏のはかりごとであったことを知りました。多勢に無勢で戦闘準備の無いままの戦いでしたが、激しい戦いは夕方まで続き、最後力つきた重忠をはじめ家臣すべてが戦死し、重忠42歳の悲運の死を遂げました。今から800年前のことです。



畠山重忠の墓

川本には、畠山重忠墓と伝わる五輪塔が館跡に立っています。また、重忠再興の菩提寺満福寺、重忠が秩父掠神社を勧請した井原神社、重忠の故事にちなんだ景勝地鶯ノ瀬が畠山地区に残っています。  
「畠山重忠辞典」ホームページ  
http://www.k2.dion.ne.jp/~kawanoto/ をご覧ください。  
畠山重忠公史跡公園へは秩父鉄道永田駅より徒歩20分

